

山にひそむ不思議

白髭の翁に会う

私のおじいさんが 17 歳になったとき、ムラの人と、みんなして、奥山のウサギ山へ行ったんだって。そして、一人だけ、山道ね、はぐれっこになってしまったんだって。三峰山の麓まで行ってしまったんだって。そしたら雪にガス(霧)かかってね、どっちが南か東か西か、全然わかんなくなったんだって。そこで、タバコでも飲もうとしたのか、座ってしまった。そしたら、目の前さ大っきな鬚のはえたね、おじいさん立ったんだって。「何さ来た？」って、こう聞かれたんだってね。「ウサギ山さ来たっけね、仲間さはぐれてしまった」。そしたら、その神様のような人に、「何もちゃもちゃしてるんだ。さっさと帰れ」って言われたのさ。「このことを人さ言っても誰もホニ(本気)にする人ない。ふだら、そのシルシに」って、自分の鬚ね、ぐっと抜いて、27 本いただいてきたんだって。そして、その神様のような人に、「ここさは 2 度来るんでないぞ。ここに来たら命ないと思えよ」って言われたんだって。その鬚は大学病院で、人間の鬚だか、ケダモノの鬚だか調べてみるといって 5 本持っていった。それは何の返事も来ないんだって。

(『升沢にくらす』 p.244)

泉ヶ三郎

やあっぱり覚えでるのは、親父から聞いたの、ほれ、そごさある、泉ヶ三郎つつの、聞いたことあるよ。

泉ヶ岳さあれ、風穴(ふうけつ)つつうのあんだっちゃ、かざあな。風穴っていって、洞窟あっでさあ。そごさ行っでえ、泉ヶ三郎って仙人みてえのいて、そいつの髭もらってきて、持っでくど、戦争で死なねえんだって。弾当だんねえんだべ。ようするにあのブナの苔みてえのなあ。そいつをほれ、採っでくんだっちゃ、ばんちゃんだち。ようするに国防婦人会さ、むがしの。やっぱ、お守り代わりに持っでったんだっちゃ。千人針みてえなあ、感じなんだべ。しで、みな持っでったんでねえすか？

うん、いーまあ考えればあ…でも、洞窟はあんだよ。風穴つつんだな。そごさ仙人が住んでたつつんだっちゃ。だから、ようするに平家の落ち武者あだりが隠れたことあんでねえの、そごさ。仙人だか泥棒だかわがんねえけどさ。こいつは、親父がその髭を持っでたから、「そゆのいたんだどお」ちゃ(て言わ)って、その洞窟探しさ行っだことあんだから、おれ。

(『升沢にくらす』 p.215)

三本桜沼・カップ淵・なお滝

三本桜沼つつうのはね、やっぱり、三本、桜あったらしいね。だから三本桜っていったんだね。とにかく、その沼がね、あのすり鉢みてえなもんだから、深くてね。そして、ウナギだのなんか、うんどいるわけね。しでむかしは、おら、小せえころね、わぎ（外）から来て、ステ針ってね、ウナギ針掛けだもんだね。切いれてとれねえの全然、（ウナギ）いるんだけど。やっぱり、あの木の枝だなんだ入ってっから、からまかって、こう切れるんでねえの。

そしてむがし、その沼干すべど思ってね、手で掘ったんだとしゃ。掘りつけらんねくて、やめんたんだね。うん、干そうどしだの、部落で。できねかったの、やっぱり手で掘っからね、こう崩れで。

そして三本桜にもね、やっぱりヘビ、このぐれえの（太さ 20 センチほどの）ヘビいだんだなんで人、いだったのね。そしてヘビ、草原、こう走ってぐとね、みな草枯れんだつのね。ほいつ、うちの親父が見だとしてね、沼こう、泳いでんの見だんだって。

かっぱ淵は、うちの山林にあんです。そのこっちに、なお滝つつうのあったのね、三本桜さ行くところのね。そこでほれ、魚釣りしったっけ、あの、血まぶれになって、帰って来た人いる。ほいつが、カップにやらったんでねえかつつう。だからほの、ヘビだか、カップだか……なおさぶろうつつう人ね。ほんで、なお滝、なお滝つつったの。うん、話に聞いたんだ。そういう話ししやんだね。

おら、小さい時、なお滝に行っでみだっけえ、やっぱりこう青々どしでね、川、危険なような川でね、今はほゆな形、ねえわねは。かっぱ淵はあるんです。かっぱ淵から、ほこの升沢分校のね、門採ったんだ。門の石、岩石。そいつの掘った跡もあんです。

（『升沢にくらす』 p.215-6）